



おとこのこと、おうじさま

あるまちに、ひとりのおとこのこがいました。

おとこのこは、まいにち、くつをみがいて、くらしていました。

とおいにおかした にはんこのいの わんがのかべがとぎれず せきいおききに ちいさかきの  
のけをたたくいかうしておわり そのまえに、ちいさなきのいすと、ちいさなきのだいを  
おいて、おきやくさんをまつのです。

きぶかにかぶった けんちんぐぼうと、きているふくと、くつみがきのどうぐだけが、おとこ  
のこの、もちものでした。

くすいかげんをまつた おとこのこが おとこのこにきがついて、くつをみがきにくると、  
おとこのこは、さっそく、くつみがきにとりかかります。

おとこのこが いおにアしかけると だいのうらにのせた りょうほうのかわぐつを めの  
でふいて ていわいにけをたたく おとこのこは くりむをぬってのぼします。そして、きれいなぬので  
、ぴかぴかになるまで、みがきあげるのです。

どわくらい ぴかぴかかかっていうと おとこのこがうつって そのかわりで おとこのこのよ  
んでる、しんぶんのくろいもじから、ぷすぷす、けむりがでるくらいなのです。

よぞらの おとこのこがうつって、どっちがそらで、どっちがくつか、わかんなくなるくらい  
ぴかぴかなのです。

おとアのハトが そのできげえに うっといしながら アいんをいぢまひ わたすと おとア  
のハトは それをいとうてでうけとって じつアいわらい おれいをいひます おとアのハトが  
みぢのおアうへ くすいかばんをふりまわし、すきつぶしながら、わたっていくのを、たのしそ  
うに、みつめるのです。

そして アいんを ぴかぴかにみがいて ギザギザのふたがくつついた かんづめのあきかん  
のかかにおとし、それが、ちりいん、と、すきとおったおとをたてるのに、みみをすませるので  
した。

おとこのこのところには、いろんなおきやくさんが、くつをみがきにやってきました。

けがわの、こーとをきた、れもんみたいな、においをふりまく、ぶーつをはいた、おんなのひと。

くらみたいに ぽっぽか けききをふか！ けいを ぽとぽと落と！ かがら もうかたあいのくつで ぞっと だめんを ぶつぶつ ぎつつきのとうにたたいている、まぶかにかぶったぼうしから、くつのさきっちょまで、まっくろずくめのおとこのひと。

てお！ ぐスキを ちっちらおっちら、こぎながら、くつぞこが、ぱくぱく、あくびをする、くたびれたくつをはいた、おばあさん。

アわから けかたげをまっア オキかかるとに あいにいくんだとって おとこのアが くつをみがいてはるあいだじゅう、ひっきりなしに、おしゃべりをつづける、つぎあてだらけのふくをきた、おにいさん。

みんか おとこのアがくつをみがきおわすと いちきいの アイムをわた！ けかうたをうたったり オキっポしたり みえかいはわがはえておどるように、みちをわたって、みんなのいこうとしているところへ、いくのでした。

おとこのアが おわいをいって ちがおでおきやくさんを見おくと、いつもの、ちりいん、というおとに、みみをすませるのでした。

おとこのこは、みちをゆくみんなのことを、みるのがすきでした。

いろんなひとが、おとこのこのめのまえを、とおりにすぎていきました。

おとこのひと、おんなのひと。

おじいさん、おばあさん。

おとこのこ、おんなのこ。

おかあさんの、せなかにおぶわれて、すやすや、ねむる、あかちゃん。

アトいや いぬや わアや ばしゃをひくうま。えさをさがしに、もりからでてきた、こんがりやけた、ぱんいろのきつね。

わんがのいのの のキサキにぶらさげられた、はちうえのばらにやってくる、ちょうちょや、じめんをこうしんするありのぱれーど。

子らちみあげスレ おハサキや くまや あめや かげが そのときどのかおで、おとこのこにあいさつをするように、あらわれては、きえていきました。

おアのアけ ちいさかきのけアのうえにすわって ぽおづえをつきながら いつも、にこにこ、そのながれていくおがわのせせらぎのような、みちをながめているのでした。



おとこのこが、どこからきたのか、だれも、しりませんでした。

いちどだけ、くすくすかがい、ふかふかのぼうしをかぶった、ギムニスげーの、きゆをしかめた、おまわりさんが、まちのみまわりのとちゅうで、おとこのこをみつけたことがありました。

おきわいさむけ、おとこのこに、ゾアからきて、ゾアへいくのか、といたが、ゾウと、のし、のし、おおきたで、とおいをわたってきたのですが、おとこのこが、ハギキであるくすいぶ一つを、アカアカにみがきあげ、アスにけ、ボトウキげムにかって、アにさげたぼうで、ふかふかぼうしを、くるくるまわしながら、まちのみまわりにかえっていきました。

おとこのこは、おきわいさむに、おれいをいうと、ちりいん、というおとに、みみをすませて、にっこりほほえむのでした。

ゾウア、けすかげが、ゾトギ、かつのおハギキが、ハカリのやをはなち、あきのこのはがちっていき、ふゆが、おとこのこのまちに、ゆきをふらせました。

おハギキと、おつきさまが、あと、ななかい、まちのみんなに、あいさつして、いちねんがおわろうとするころ。

ゆきのふりつもった、しずかなまちに、くろいまくがおりて、あかりがともり。

ハトリの、りっぱなみなりのおとこのこが、くつみがきのおとこのこのまえに、たっていました。

そのおとこのこの、あたまのうえには、きんいろのかんむりがのっかり、あかいアスードのま

ムと かしみあのこーとのむねには、たくさんの、きんやぎんいろにひかるばっじが、かざられていました。

かんむりをかぶったおとこのこは、きのだいに、ばらと、つたのもよりのついたくつをのせていました。

「ぼくは、これから、ぶとうかいにいくんだ。このくつを、ぴかぴかに、みがいてくれないか」

おとこのこは、いつものように、にっすいわらって、めので、ばらのくつから、きれいに、おとこのこのおとししました。といっても、ほとんど、ほこりがくつつかないくらいに、きれいなくつだったのですけれど。

「かあ、ぼくは、だれだとおもう？」かんむりのおとこのこは、くつみがきのおとこのこのみに、ささやくように、いいました。

「アのくいの、おうじさま、だから、あのいねも、アのいねも、アのみちも、アのきち、ザムぶが、ぼくのものかんだ、だから、アのおみせも、きみのくつみがきのどうぐも、きみがすわってる、そのきのはこだって、ぜんぶ、ぼくのものなんだよ」

アうって、おうじさまは、りょうてをひろげて、まちぜんぶを、うでのなかにおさめるのでした。

おとこのこは、くりーむを、おうじさまのくつにぬって、あたらしいぬので、みがきはじめました。

「アの、くりーむだって、ぼくのものなんだぞ。ところで、それって、どこからかっているんだい？」



「はい、おうじさま、かうんじやあいきせん、スう子くのスうや、らんぱのあぶらや、おみずを、まなのかみに、わけてもらって、たきばのうえにかけた、あきかんで、ぐつぐつ、にるんです。そうして、くっきーのかんに、しまっておくんです」

おとこのこは、そういつて、にっこり、ほほえみしました。

「じゃ、子んかの、いらかいや、ぼくはわ、かんだって、まっアス、けーきま、くっきーま、おかしなま、いくらだって、たべほうだいさ、けらいが、まっアスからわ、ふくま、くつま、おきかだけ、かえスんだ、ぼくにっくに行くときの、しろい、うまだって、そうさ。おとうさまの、おうさまが、たくさん、きんかをくれるんだ」

おとこのこは、しろいきをはきながら、かじかむゆびで、くつのすみずみまで、ぬのをはしらせませす。

「アわからいく、ぶとうかいかまかじゃ、いちめんちとうま、いすまかくにの、めぞらしいア子、子うま、じゅうかいだてのけーきま、かんだって、あすのさ、子して、アのくにのだいじんとか、えらいひととか、よそのくにのおおさまも、ぼくにぷれぜんとをくれるんだ。なぜだとおもう？」

「なぜでしょう」

おとこのこは、ゆびさきを、ときどき、いきであたためながら、みがきつづけます。

「みんか、おうじさまに、あいたいからだト、だから、アとけ、とくべつに、ふつうのアドも、たちま、ぶとうかいに、よんでいすんだ、おうじさまにあいたいつてアが、おおいからわ、ぼくが、アのぷれぜんとを、おもいついたんだ。それで、こうして、きみにも、ぷれぜんとを、とどけにきたってわけ」

「おうじさま、できました」

おうじさまが ムスレ リトウほうのくつが いきにも、まとうにかかれた、ばらがさき、つるがのびていきそうなほど、ぴかぴかに、みがきあげられていました。

「へえ、きれいだな。ありがとう。きみにも、いいふれぜんとなったかな？」

おうじさまは、そういつて、いちまいのこいんを、おとこのこのてに、おとしました。

はい、とほほえんで、おとこのこは、あきかんに、こいんを、ちりいん、と、いれました。

子のオムだわいすけ ちいいム ちいいム と ！ ぞかかきちのとおいに フトキわたいキ  
した おとアのアけ あきかムを ミミの子げでふいキした しゃんしゃん、と、すずのねのよ  
うなおとが、ゆきのみちいっぱい、ひろがっていきました。

しゃんしゃん、しゃんしゃん、しゃんしゃん、しゃんしゃん。

がいとうに げんやりとてらされた、みちのむこうから、のりもののかげが、ちかづいてきて  
、とまりました。

子アから フトかけがおいてくると、ふたりのほうへ、きゅつきゅつと、ゆきをふみしめな  
がら、ちかづいてきました。

「おうじさま、おむかえにあがりました」

「ああ、またせたね」

ふいかえった おうじさまは めとくちを いっぱいひらげたまま、こどもたちがつくった  
、ゆきだるまのように、かんかんに、こおってしまいました。

子アには あかにしるいふちどりのふくとぼうしをみにつけた、しろいおひげにあからがおの  
、おおきなおじいさんが、たっていました。

くつみがきのおとアのアけ ちいさかきのけアからたちあがると 子のけアをひっくりかえ  
して、なかから、いちまいの、まんをととりだし、それをせなかにはおりました。

おとこのこが けんけんがぼうをめで あたきをふすと つんつんにとがった きんぎょの  
かみのけが あらわれました おとこのこは、いつのまにか、こしにちいさなけんをさし、しろ  
いきぬのようなふくをみつけていました。

おとこのこが かたぼうのてににぎった けいのかざいがついた けいがかがいけいのとうか けんを  
かきふり 振りまいた オスと、くつみがきのどうぐは、すっかりかたづけられて、けむりの  
ように、きえているのでした。

おとこのこのふく ほそながいけんから、ひかりがまたたき、ほしのように、あたりいちめ  
んを、てらしました。

いくつものえだにおかれた おおきかきの上うか いっぱいかつのをけやし くぼにすずをつ  
けた おおきなうまにたいきものたちが、そりいっぱいにおおきなしろいふくろをつんでいま  
した。

おとこのこがちかづくと いちげんきでけんをかき そのうちのいっとうが あかいけをか  
おとこのこのほっぺたに、すりよせてきて、おとこのこは、くすぐったそうに、わらいました。

しろいひげのおじいさんが、そりにのりこみ、おとこのこが、そのうしろにすわりました。

けんとうの しろいふくが まるまるとうき ぽけっ と そのあいだから いそぐな  
くにの、いろんなおうじさまやおひめさまたちが、かおをだして、わらいごえをあげました。

ぽかん、としているおうじさまに、おとこのこは、てをのぼして、いきました。

「いこうよ。みんなが、ぼくたちに、あいたがってるよ」

そりが、そらにうかびあがろうとするころ、おうじさまは、はっとしてさげびました。

「まって、まって、ぼくも、いくよ！」

おとこのこは、おうじさまのてをにぎり、みんかが、ふくをつかんで、そりのうらへ、おうじさまをたぐりあげました。ゆきのうらに、きんやぎんのぼっじや、おうじさまのかんむりが、おちていきましたが、おうじさまは、もう、そんなこと、きにしませんでした。

けいこー、と、いすのぼのおじいさんのかけぞうをあげたが、そりけ、ぞんぞん、そらたかくまいあがり、こなゆきといっしょに、すずのねが、まちじゅうをつつみしました。

そらからふる、おうじさまたちの、わらいごえが、すこしづつ、とおざかり。

おとこのこは、ほしのひかりのみちしるべをのこして、そりは、どこまでもたかく、とんでいきました。

ゆきは、ほしじゅうに、しんしんと、ふりつもっていきました。

(おしまい)